

令和4年度 第1回学校関係者評価委員会（報告）

鹿児島県立与論高等学校

- 1 日 時 令和4年7月13日(水) 午後2時30分～4時20分
- 2 場 所 本校図書室
- 3 出席者 (1) 学校関係者評価委員(5人)
与論中学校, 与論町教育委員会事務局, 与論町観光協会,
学習塾まなび島, P T A会長
(2) 本校職員(9人)
校長, 教頭
4部主任(教務, 進路指導, 生徒指導, 保健), 1～3学年主任
- 4 日程等 (1) 委嘱状交付
(2) 授業参観
(3) 評価委員会(校長挨拶, 学校説明, 協議(意見交換, 要望等))

5 意見交換

- 今後、中高一貫教育の重要性がより大事になってくる世の中になると感じている。その点を踏まえて、入試の在り方を変える考えはあるか。
 - 入試の在り方については、現在の形態を継続していくことになる。本校では、与論中学校からの受検生に対して、連携型中高一貫教育に係る入学者選抜を課し、入学予定者に対しては鹿児島県公立高等学校入学者選抜の一般入学者選抜の問題を定着度調査という形で実施している。連携型中高一貫教育に係る入学者選抜は、調査書及び学力検査以外の資料により行うことができるとされていることから、中学校における総合的な学習の時間に取り組んだ内容をレポートにまとめたり、作文や面接を課すことによって可否を判定している。また、定着度調査で5教科を受検することから、連携型中高一貫教育に係る入学者選抜も含めると、生徒の状況を深く把握した上で新入生を迎えることが可能になっている。連携型中高一貫教育に係る入学者選抜の結果や定着度調査による学力等の概要については、与論中学校との合同職員会議で情報の共有等も出来ていることから、本校の入試の在り方については充実したものになっていると考えている。
- 新しい学習指導要領を踏まえて授業の姿が変わり、形になっていると感じた。生徒の意欲を引き出すことが求められる今の時代に対応している。今後は個別最適化の視点が問われてくると思うが、どのように対応するのか。
 - 1年生に対してはPC端末を配付し、授業でも家庭でも活用している。また、生徒が個別に学習を進めることができるように、リクルート社のスタディサプリに学校として加入し、個々の状況に応じた学習が可能になるようにした。2・3年生についても、希望者はスタディサプリを活用することができるようにしている。PC端末は文房具であるという認識の下、次年度以降も必要不可欠なものであるという意識を生徒保護者に持ってもらう必要があるため、学校としては積極的にPC端末を活用した授業の実施を心掛けている。
- 昔と比べると教育の在り方がだいぶ違うことを感じた。今日の授業参観で、生徒たちが充実した教育を積極的に受けていた。その中で、前向きに頑張ることが出来ない生徒たちへの対応はどのようにしているのか。
 - 登校することが出来ない状況になってしまう生徒がいる現状もある。そのような生徒たちに対しては、担任が保護者と連携して情報の共有をして登校を促したり、生徒が登校した際に教科担任が個別指導をしたりして支援することで対応している。また、与論中学校との連携が取れており、登校が難しかったり学業への支援が必要であったりする生徒たちに対する情報の共有に基づいて対応することができている。
- 授業参観で先生方や生徒たちの様子を見て、その取り組む姿勢が素晴らしかった。日頃からしっかり取り組んでいるということが伝わってきた。教員同士の連携を図らなければ、このような授業にはならないと思うので、先生方に敬意を表したい。これからも生徒たちをよろしく願いたい。